

充当科目コード : B101S0 (総合科目Ⅰ)
B102S0 (総合科目Ⅱ)
B103S0 (総合科目Ⅲ)
B104S0 (総合科目Ⅳ)
B105S0 (総合科目Ⅴ)
B106S0 (総合科目Ⅵ)

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1 学年以上

◆学修到達目標

論文の基本的なルールと作成法を身につけることを目指します。

◆準備学修

この授業では、最終的に簡単な論文を書いてもらいます。そこで論文のテーマを考えておいてください。テーマは何でもかまいません。とにかく自分が興味をもてるもののがいいです。そしてそれをネットで少し調べておいてください。

◆授業の計画

- 第 1回 ガイダンス 論文 3 原則, 本の紹介
- 第 2回 リポートの書き方① 原稿用紙の使い方, 資料の調べ方・探し方
- 第 3回 リポートの書き方② 辞典・事典・用語集, リポートの構造
- 第 4回 中身よりみたく レイアウトと表記法, 文章配置
- 第 5回 わかりやすい文章にする 3 原則 無限半切, 重複禁止, 執拗通読
- 第 6回 文献・資料の集め方① 二つの文献検索法, 文献資料収集
- 第 7回 文献・資料の集め方② アマゾン・国会・大学図書館の使いこなし
- 第 8回 文献・資料の整理方法 文献読込法, 論文ノート, 情報整理
- 第 9回 論文 (卒論) の執筆手順 執筆計画の立て方, 論構成と章構成の方策
- 第10回 注釈・引用・参考文献の示し方 近年型による示し方, 巻末での表記
- 第11回 論文論 (よい論文とは) よい論文の 3 原則
- 第12回 瀬戸際のテクニック 書式・論構成のテクニック

◆教科書

小笠原喜康『論文の書き方ーわかりやすい文章のために』ダイヤモンド社, 2007

◆参考書(参考文献等)

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書, 2009

小笠原喜康『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書, 2003

◆成績評価基準

レポート中心に受講状況等を加味し, 総合的に評価します。

※授業では, Microsoft-Excel とワープロソフト (Microsoft-Word または一太郎) を使用します。

※既にメディア授業で当該講座に合格した学生は, 受講できません。

◇日本大学を学ぶ—その120年の歴史—[総合科目]M（開講単位数:2単位）**担当者:鍋本 由徳**

充当科目コード : B101S0 (総合科目Ⅰ)

B102S0 (総合科目Ⅱ)

B103S0 (総合科目Ⅲ)

B104S0 (総合科目Ⅳ)

B105S0 (総合科目Ⅴ)

B106S0 (総合科目Ⅵ)

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1 学年以上

◆学修到達目標

本講義の目的は、日本大学の歴史を、その創立から現代に至るまでを学修し、本学がいかにして日本最大の総合大学へと成長したかを知ることにある。ただし、日本大学という一組織の歴史をたどるのではなく、広く日本の近現代史の流れの中に本学を位置付け、本学の成長・発展の過程を通じて、近現代史を学ぶというのがねらいである。また、講義では教育機関としての大学のみでなく、時代ごとの学生生活の様相を、可能な限り学生の視点からとらえるように努める。

◆準備学修

上記「学修到達目標」でも述べておいたが、本授業は、日本大学のみ歴史を学ぶものではなく、本学の歴史が我が国の近・現代史の流れといかにかかわりつつ造り上げられてきたのかを学ぶことが目的である。したがって、日本近・現代史の流れを可能なかぎり把握しておくことが望ましい。

◆授業の計画

第1章 本講義を学修するにあたって

第2章 日本大学120年の歩みⅠ

第3章 日本大学120年の歩みⅡ

第4章 日本法律学校の誕生

第5章 明治期の学園風景

第6章 大学令と日本大学

第7章 戦時体制下の学徒

第8章 高度経済成長と大学の大衆化

第9章 大学紛争とその後の日本大学

第10章 日本大学とスポーツ・文化活動

第11章 活躍する日大人

第12章 通信教育部の歩み

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

メディア授業の各章ごとに提示

◆成績評価基準

メディア授業受講状況(質疑応答, ディスカッション) 30%,

理解度チェック 30%, 最終レポート試験 40%。

※既にメディア授業で当該講座に合格した学生は、受講できません。

◇歴史学MA（開講単位数:2単位） 担当者:高綱 博文・須江 隆・粕谷 元・郡司 美枝

充当科目コード：B11100

配当学科：全学科・専攻

配当学年：1学生以上

◆学修到達目標

本講義の目的は、さまざまな時代と地域に生きた人物を通して異なる時代を理解し、他者を理解することであり、これは自分たちが自明に思っていることを問い直し、自分たちを多様な視点から眺め直して見る機会を与えてくれる。歴史に問いかけて、自分自身の生き方の多様な可能性を探求することにある。

◆準備学修

本講座を受講するに当たり、シラバスに該当する人物については通信教育教材『歴史学 B11100』によって学修しておくこと。

◆授業の計画

- 1) 明治天皇－国民の父として
- 2) 乃木希典－戦没者家族の涙とともに
- 3) 石田伝吉－理想の村を求めて
- 4) ムスタファ・ケマル・アタテュルク－トルコの「文明化」のために
- 5) ベディユズザマン・サイド・ヌルスィー－世俗化に抗して
- 6) セイイド・ベイ－イスラームの宗教改革者？
- 7) 岸田吟香・荒尾精－東亜同文書院の源流
- 8) 内山完造の中国社会体験
- 9) 上海日本人引揚者たちのノスタルジー
- 10) 蘇舜欽－乱痴気騒ぎのつけ
- 11) 方臘－宋王朝を震撼させた男
- 12) 林二十三娘－神となった巫女

◆授業の方法

メディアを利用した授業を中心としながら参考書等による自己学修を併用する。

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

メディア授業「歴史学」の各章に掲載

◆成績評価基準

メディア授業受講状況（質疑応答，ディスカッション）25% 理解度チェック25% 最終レポート試験50%

充当科目コード：B11500

配当学科：全学科・専攻

配当学年：1学年以上

◆学修到達目標

本講は法律学の入門として、法律がどのような特色をもっているかを平易な言葉で語りかけることを目指している。法律学は長い歴史を持つものではあるが、法律は常に日常生活の中で生きてきた人類の智慧でもある。この講座を経て六法への道が開かれる。

◆準備学修

法律の目標は平和であるが、取り上げる対象は紛争である。したがって、社会生活上のさまざまな紛争を捉えることが、学修の前提として必要である。その意味において、準備学修の一環として、新聞を紛争事例集として見ることをお奨めする。また、個別問題を取りあげている新書（岩波新書，中公新書など）を用いて問題意識を醸成してほしい。

◆授業の計画

大きく3つの分野から成り立っている。

- (1) 法が社会規範であること。
- (2) 法の適用や解釈についての原則。
- (3) 日本国憲法の基本原理と概要。

1章 社会規範と他の区別すべきもの

7章 法の解釈

2章 法と他の社会規範

8章 法の適用

3章 成文法

9章 近代法の思想

4章 不文法

10章 日本における法の整備

5章 法の効力

11章 日本国憲法の歴史，基本原理，国民の権利業務

6章 法相互の関係

12章 統治機構，憲法の改正

◆教科書

『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000515）

※平成29年3月1日（水）以降に教科書を配本・購入される場合は、上記（教材コード000515）教科書となります。

『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000394）

◆参考書(参考文献等)

『新法学入門』弘文堂

◆成績評価基準

まず、全ての単元を受講していることが評価の前提となります。その上で、理解度チェック（30%）、最終試験（70%）による評価をします。

※授業では、ワープロソフトとしてMicrosoft-Wordまたは一太郎を使用します。

充当科目コード : B11700

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1 学年以上

◆学修到達目標

現代社会の諸現象は、政治現象を抜きにして考えることができません。個人や集団の要求が政策としての法律や予算として決定され、執行されます。私たちの生活に直接関係することが多い政治について、基礎から学んでみましょう。

◆準備学修

政治学は、社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。人間社会においては様々な問題が発生しますが、その問題が発生する原因を究明し、問題解決の方法を見出し、より良い社会を築く必要があります。学修の準備として、メディアの記事などを参考に、社会において、如何なる問題が存在するかを検討してください。

◆授業の計画

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 政治学の変遷 | 7 選挙 |
| (1) 古代・中世 | (1) 選挙制度の原則 |
| (2) 近世・近代 | (2) 選挙の種類 |
| 2 政治の概念と本質 | 8 選挙区の画定と代表 |
| (1) 政治の概念 | (1) 選挙区の画定 |
| (2) 政治の本質 | (2) 代表選出の形態 |
| 3 政治権力 | 9 政党 |
| (1) 権力の概念と構造 | (1) 政党の概念と特徴 |
| (2) 支配の手段と形態 | (2) 政党の発展過程と形態 |
| 4 国家 | 10 政党の機能と問題点 |
| (1) 国家の概念と成立要件 | (1) 政党の機能 |
| (2) 国家の分類 | (2) 政党の問題点 |
| 5 議会政治 | 11 圧力団体 |
| (1) 議会政治の原理 | (1) 圧力団体の概念と特徴 |
| (2) 議会の構成 | (2) 圧力団体の発生理由と活動 |
| 6 立法府と行政府 | 12 政治と行政 |
| (1) 議院内閣制 | (1) 議会政治の変転と行政国家 |
| (2) 大統領制 | (2) 政治と行政との関係 |

◆授業の方法

講義形式で行いますが、ネットを通じて質問を受付け、また受講生の皆さんが討論に参加することも歓迎されます。

◆教科書

『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード000279）

◆参考書(参考文献等)

『教養政治学』関根二三夫他著 南窓社

◆成績評価基準

課題に関するレポート試験を行います。教科内容の理解度、質疑への参加、討論への参加なども勘案したいと思います。

充当科目コード : B11800

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1 学年以上

◆学修到達目標

科学としての経済学を理解してもらうために、経済学における基礎的な概念を中心に進めます。そして、経済学についての考え方を理解するための一助にしてください。

◆準備学修

現代日本は、様々な問題をかかえています。経済面では、急速な少子高齢化・グローバル化・財政危機等の難問が山積しています。したがって、受講者各位はこれらの諸問題に関心を持ち、解決に向けての処方箋を考えることを望みます。各自が考え、検討した意見をディスカッションボードで発表し、メディア授業の活性化に取り組まれることを望みます。

◆授業の計画

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 経済学とは何か | 7 財の所得効果・代替効果 |
| ・経済学とはどんな学問か | ・財の価格変化と所得効果・代替効果 |
| ・経済現象と稀少性の法則 | ・依存効果 |
| 2 経済学の研究の進め方 | 8 生産函数 |
| ・経済学の方法 | ・生産者行動とその基準 |
| ・経済学の分野 | ・生産函数 |
| 3 資本主義経済と社会主義経済 | 9 等量曲線・生産費の理論 |
| ・資本主義経済と社会主義経済 | ・等量曲線 |
| ・混合経済 | ・生産費の理論 |
| 4 消費者の行動基準 | 10 平均費用・限界費用と最適生産量 |
| ・財の効用（主観的評価）について | ・短期 |
| ・限界効用均等の法則と選択行動 | ・長期 |
| 5 無差別曲線と消費者余剰の法則 | 11 生産者余剰と限界生産力均等の法則 |
| ・消費と代替 | ・生産者余剰 |
| ・限界効用と価格の決定 | ・限界生産力均等の法則・消費者余剰の法則 |
| 6 所得・価格と需要変化の関係 | 12 最大利潤と個別供給曲線 |
| ・消費性向・貯蓄性向 | ・最大利潤 |
| ・消費と需要の価格弾力性 | ・個別供給曲線 |

◆授業の方法

講義形式で行うが、ネットを通じて質問を受付けます。また受講生の皆さんが討議に加わってください。

◆教科書

『経済学』瀬川浩・田村和彦編著 桜門書房

◆参考書

『新版 経済学』千種義人著 同文館

◆成績評価基準

試験：80% ， 理解度チェック：10% ，
受講状況（ディスカッションボード上での討議）：10%

充当科目コード : B12100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1 学年以上

◆学修到達目標

心理学は、わたしたちのこころの働きを科学的に探求する学問である。本授業では、この心理学の基礎知識の習得とともに、わたしたち人間の心理と行動を心理学の目で新たに捉え直すことをねらいとする。

◆準備学修

教科書は特に指定しないが、下記の参考書の欄に挙げるような心理学の入門書を各自で入手して事前に予習をして欲しい。具体的には、各自で用意した入門書の中の、各回のテーマに該当する章を読み、その章で学ぶべき点は何かを事前に考えるとともに、そこに登場する新しい概念や専門用語について下調べしておくことが望ましい。

◆授業の計画

- 1) 心理学の定義と歴史
- 2) 現代心理学のアプローチ
- 3) 心の生物学的基礎
- 4) 感覚 1
- 5) 感覚 2
- 6) 知覚 1
- 7) 知覚 2
- 8) 発達
- 9) 記憶 1
- 10) 記憶 2
- 11) 知覚的表象
- 12) 意味的表象

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

巖島行雄・羽生和紀（編）「ベーシック心理学」 啓明出版

岡市廣成・鈴木直人（編）「心理学概論」 ナカニシヤ出版

◆成績評価基準

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇ 英語 I MA – 英文法の基礎力と基礎的な英文読解力を養う（開講単位数:1単位）

担当者:猪野 恵也

充当科目コード : C10100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1 学年以上

◆学修到達目標

重要な英文法の基礎を習得し、短編を読みながら英文の構造を把握できるようにします。これからの英語学修に役立てて頂ければ幸いです。

◆準備学修

英語を聞く、話す、書く、読む、の四技能のうち、もちろんどれも重要ですが、大学での学修では英文読解力が求められる場合が多いです。ですから英文法の力を効果的に身につけるために、授業計画を参考にして高校生用(場合によっては中学生用)の学修参考書などに目を通しておいて下さい。

◆授業の計画及び方法

【授業の方法】

メディアを利用した英文法の学修とテキスト読解

【授業計画】

- 1 品詞及び句と節
- 2 文型
- 3 不定詞と動名詞
- 4 分詞
- 5 分詞構文
- 6 関係詞
- 7 Goodbye, my brother 読解 (1)
- 8 Goodbye, my brother 読解 (2)
- 9 Goodbye, my brother 読解 (3)
- 10 Goodbye, my brother 読解 (4)
- 11 Goodbye, my brother 読解 (5)
- 12 Goodbye, my brother 読解 (6)

◆教科書

『英語I C10100』通信教育教材（教材コード000019）

◆参考書(参考文献等)

『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）、『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）等、中型で例文が豊富なもの。

◆成績評価基準

メディア授業の受講状況（各回を必ず2回以上視聴すること）と2回の試験（レポート形式）により総合的に評価する。

充当科目コード：0042

配当学科：全学科・専攻

配当学年：1 学年以上

◆学習到達目標

Susan Elizabeth Hill の “How Soon Can I Leave” を読みながら、「初めて目にする英文を辞書さえあれば読める力」を身につけること、その力を利用して文学作品を鑑賞する楽しみを感じることをねらいとする。

◆準備学習

あらかじめ、名詞、動詞、形容詞など、品詞をしっかりと区別できるようにしておきましょう。各単元とも、授業で言及されなかった部分については、授業の内容を参考にしながら、自分で文の構造を理解できるかどうかを意識しながら読み進めていって下さい。そのためにも、辞書は丁寧に引いて下さい。単語の意味を調べるだけでなく、文型や修飾関係など、文の構造を確認するために辞書を利用するようにしましょう。

◆授業の計画及び方法**【授業の方法】**

メディアを利用したテキスト読解

【授業計画】

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 1 テキスト | 1 ページ目から 2 ページ 6 行目まで |
| 2 テキスト | 2 ページ 7 行目から 3 ページ 1 行目まで |
| 3 テキスト | 3 ページ 1 2 行目から 4 ページ 6 行目まで |
| 4 テキスト | 4 ページ 7 行目から 5 ページ 1 行目まで |
| 5 テキスト | 5 ページ 1 2 行目から 6 ページ 2 5 行目まで |
| 6 テキスト | 6 ページ 2 6 行目から 8 ページ 4 行目まで |
| 7 テキスト | 8 ページ 5 行目から 9 ページ 1 3 行目まで |
| 8 テキスト | 9 ページ 1 4 行目から 10 ページ 2 6 行目まで |
| 9 テキスト | 10 ページ 1 行目から 12 ページ 2 行目まで |
| 10 テキスト | 12 ページ 3 行目から 13 ページ 1 3 行目まで |
| 11 テキスト | 13 ページ 1 4 行目から 14 ページ 2 7 行目まで |
| 12 テキスト | 14 ページ 2 8 行目から 16 ページ 3 行目まで |

◆教科書

『英語Ⅱ C10200』通信教育教材（教材コード000020）

◆参考書

英和辞典（語法の説明や例文が豊富なもの）

文法書（各自使いやすいものを選ぶとよい）

◆成績評価基準

メディア授業の受講状況（ディスカッションボードへの書き込み等含む・10%）、理解度チェック（1～4各10%、計40%）、及びインターネットを利用した試験（レポート形式・50%）による総合的な評価。

充当科目コード：C10300

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

主語・動詞・目的語などを正しく把握する，また修飾と被修飾の関係も正しく捉える。そして，語の意味・文の意味を正確に理解する。

◆準備学修

特別なし。

◆授業の計画及び方法

【授業の方法】

メディアを利用したテキスト読解

【授業計画】

随筆家Robert Wilson Lynd の『Forgetting』と哲学者Bertrand Russellの『Knowledge and Wisdom』をそれぞれ下記のように6回に分けて講読します。それぞれの回では2つあるいは1つの重要構文をポイントとします。

1 Forgetting (1)

2 Forgetting (2)

3 Forgetting (3)

4 Forgetting (4)

5 Forgetting (5)

6 Forgetting (6)

7 Knowledge and Wisdom (1)

8 Knowledge and Wisdom (2)

9 Knowledge and Wisdom (3)

10 Knowledge and Wisdom (4)

11 Knowledge and Wisdom (5)

12 Knowledge and Wisdom (6)

◆参考書(参考文献等)

『英語Ⅲ C10300』通信教育教材（教材コード000021）

◆成績評価基準

メディア授業の受講状況（すべてのLessonを受講）と2回の報告課題（レポート形式—スクーリングの試験に相当）により総合的に評価する。

充当科目コード：C10400

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

英会話にしても英作文にしても、重要となるのは表現力である。受験などで多くの単語を暗記してきた学生でも、実際に使われている表現をどれほど知っているだろうか。例えば、He was served on hand and foot. のhand and foot が「必要なものすべて」を意味することをどれだけの子が知っているだろうか。この講義の目的はスピーキング・ライティングに重要な基本事項を確認しながら、実際に英語を母国語としている人々が使う表現を学修していくことにある。

◆準備学修

日本語の直訳だと意味がずれてしまう表現が多くあるので、単語を調べるときには必ず、英英辞典を利用するように心がけてください。パッセージの部分での太字の表現はそれぞれの課で学修する単語です。どのような意味になるかを自分で調べ、実際の説明と一致しているかを確認してみてください。

◆授業の計画

- (1) 基本的な動詞の使い方 [1]
- (2) パラグラフの基本
- (3) 基本的な動詞の使い方 [2]
- (4) 時間軸でパラグラフを構成する
- (5) 動詞＋名詞句の使い方 [1]
- (6) 重要度の純でパラグラフを構成する
- (7) 動詞＋名詞句の使い方 [2]
- (8) 空間秩序でパラグラフを構成する
- (9) 間違いやすい動詞の使い方 [1]
- (10) メインアイデアを補う：個人的な経験を利用する
- (11) 間違いやすい動詞の使い方 [2]
- (12) メインアイデアを補う：事実と引用を利用する

◆教科書

『英語IV C10400』通信教育教材（教材コード000371）

◆参考書(参考文献等)

Longman Dictionary of Common Errors

◆成績評価基準

2回のレポートを中心に受講状況を加味し総合的に評価します。従ってレポートは必ず提出してください。

充当科目コード：C10600
配当学科：全学科・専攻
配当学年：1 学年以上

◆授業のねらい

本講座では、今後の英語学修の土台となる「基礎・基本」を学ぶことを目標としています。この「基礎・基本」を疎かにすると、その後の‘伸び’はあまり期待できません。本講座で扱う内容は中学卒業程度の文法事項、及び英文ですが、それらは決して「楽」や「易」とイコールではありません。この点には十分留意して、学修に臨んでください。前半にあたる「英語基礎 MA」は、英語の『品詞』を中心に学修していきます。

◆準備学習

基本的に、「予習」の必要はありません。その代わりに、「復習」を‘徹底’してください。
※ワープロソフト（Microsoft Wordまたは一太郎）を使用できるようにしておくこと。

◆授業の計画

- 第1章 「品詞」と「文法」（『4大品詞』）
- 第2章 『動名詞』
- 第3章 『前置詞』
- 第4章 『不定詞』その1
- 第5章 『不定詞』その2
- 第6章 『辞書に関するあの話この話』
- 第7章 『分詞』
- 第8章 『動名詞』 vs. 『現在分詞』
- 第9章 『不定詞』応用
- 第10章 『発音に関するあの話この話』
- 第11章 『接続詞』
- 第12章 『関係代名詞』その1
- 第13章 『関係代名詞』その2
- 第14章 『助動詞』
- 第15章 英語を使おう！

◆教科書

ディスカッションボードから随時テキストをダウンロードしてください。
※プリントアウトして、参照しながら動画を見ることが望ましい。

◆参考書(参考文献等)

特になし。

◆成績評価基準

受講状況、理解度チェック、最終レポート等で総合的に評価します。

充当科目コード：K20100

配 当 学 科 ：全学科・専攻

配 当 学 年 ：法学部は1学年以上，その他は2学年以上

◆学修到達目標

憲法は、国家のあり方を規定した基本法である。したがって、憲法を知ることが、われわれが国民生活をしていく上で、極めて重要である。本講義では、憲法とは何かを理解してもらうよう努めたい。

◆準備学修

収録されている授業をよく聴くこと。授業計画にそって、教材および参考書をよく読んでおくこと。授業の範囲における専門用語については、法学（法律学）辞典を引き、その意味を正確に理解しておくこと。

◆授業計画

- 1) 憲法
- 2) 日本憲法史—1
- 3) 日本憲法史—2
- 4) 日本国憲法の基本原理
- 5) 天皇—1
- 6) 天皇—2
- 7) 基本的人権—1
- 8) 基本的人権—2
- 9) 基本的人権—3
- 10) 基本的人権—4
- 11) 基本的人権—5
- 12) 基本的人権—6

◆授業方法

憲法の解釈論が中心となるが、憲法を理解するための前提として、その基礎観念、基本原理などをもみていく。メディアを利用しての授業を中心としながら、テキストおよび参考書等による自己学修を併用する。

◆教科書

『日本国憲法』名雪健二 有信堂

◆参考書(参考文献等)

参考書を希望する者は 『日本国憲法要論』廣田健次 南窓社 を購入されたい。

◆成績評価基準

試験を中心に、授業の受講状況と理解度チェック（全ての提出が前提であり、提出できない場合は減点とする）を加味して、総合的に評価する。

充当科目コード: K20200

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 法律学科は1学年以上, その他は2学年以上

◆学修到達目標

- 1 民法学における, 民法総則の体系的な位置付を理解する。
 - 2 民法総則の体系(全体像)を理解する。
 - 3 1, 2の理解・修得を前提として, 民法総則に関する基本論点を理解する。
- ※ 民法 I MA (民法総則の体系と基本論点) は, 民法総則の未修学生を対象とする講座である。後期開講予定の民法 I MB (民法総則の争点) は, 民法総則の既修学生を対象とする講座である。これから民法総則を学ぼうとする学生が, いきなり民法 I MB を履修することは望ましくない。民法 I MA または民法 I の別講座を履修し, 民法総則の仕組や基本的な専門用語を理解してから, 民法 I MB を履修することを推奨する。

◆準備学修

予習は必要ない。但し, 必ず実際に講義を視聴すること。採点者からは, 答案作成者が実際に視聴したのか, それとも, 視聴せずにログイン記録だけ残したのか, はっきりとわかるものである。

◆授業の計画

- 1 序論 — 民法学修の前提 —
- 2 民法の全体像
- 3 民法総則の全体像
- 4 私権
- 5 私権行使の制限原理・修正原理 — 一般条項 —
- 6 私権の主体と客体 (自然人・法人, 能力論, 制限行為能力者制度, 権利の客体の諸類型など)
- 7 " "
- 8 法律行為 (総説, 法律行為の一般的有効要件の解説など)
- 9 " (法律行為の主観的有効要件たる意思の不存在・瑕疵ある意思表示の解説など)
- 10 " "
- 11 " ・期間計算 (代理制度, 無効と取消の効果, 条件と期限, 期間計算の解説など)
- 12 時効制度

※コンテンツの補訂・調整に伴い, 上記シラバスと講義の進行に齟齬が生じる場合がある。

◆教科書

指定しない。

◆参考書(参考文献等)

山川一陽他著「要説 民法総則・物権法<新訂版>」(法研出版)
なお, 関連文献については, 講義の際に適宜紹介をする。

◆成績評価基準

全12回の講義を受講していること。全回受講済を前提として, 理解度チェックと最終試験の総合点により成績評価をする。

充当科目コード：K30100

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

- 1 民法学における、物権法（物権法総論・用益物権）の体系的な位置付を理解する。
- 2 物権法の体系（全体像）を理解する。
- 3 1, 2の理解・修得を前提として、物権法に関する基本論点を理解する。

※ 後期開講予定の民法ⅡMB(担保物権法)は、民法ⅡMAの続編である。ゆえに、これから民法Ⅱを履修する学生は、山川民法ⅡMAを履修してから、民法ⅡMBを履修することを強く推奨する(順序を逆転すると、理解に差し支えを生じる)。

◆準備学修

前回講義に相当する部分の、添付レジュメと自分のノートの記述内容をよく復習してから、次回講義に臨むこと。

◆授業の計画

- 第1章 物権法を学ぶにあたって—民法とはどのような法律か—
- 第2章 物権法総論① —序説—
- 第3章 物権法総論② —物権の効力—
- 第4章 物権法総論③ —物権の種類と物権法定主義—
- 第5章 物権法総論④ —物権の変動—
- 第6章 物権法総論⑤ —不動産の物権変動と公示（対抗要件）—
- 第7章 物権法総論⑥ —登記がなければ対抗することができない物権変動—
- 第8章 物権法総論⑦ —登記制度と登記に関する諸問題①—
- 第9章 物権法総論⑧ —登記制度と登記に関する諸問題②—
- 第10章 物権法総論⑨ —動産の物権変動と公示（対抗要件）—
- 第11章 物権法総論⑩ —即時取得に関する諸問題—
- 第12章 物権法各論① 占有権（その1）
- 第13章 物権法各論② 占有権（その2）
- 第14章 物権法各論③ 所有権（その1）
- 第15章 物権法各論④ 所有権（その2）

◆教科書

本講義に添付されるレジュメ・山川一陽著「物権法講義」第3版 日本評論社

◆参考書(参考文献等)

なし。

◆成績評価基準

全15回の講義を受講していること（ログにて確認をする）。全回受講済を前提として、理解度チェック（全回受験すること。ログにて確認をする）と、最終試験の総合点により成績評価をする。

充当科目コード: K20300

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 1 学年以上

◆授業のねらい

犯罪は、人間がいかなる存在かを示す鏡のようなものである。本稿のねらいは、いかなる場合に犯罪が成立するかを体系的に明らかにするところにあるが、それは畢竟、刑法学を通して人間存在を理解することにつながるはずである。

◆準備学修

以下の中で、少なくとも3つは実現してほしいと期待している。

- (1) 刑法は規範学であるから、法学で学んだ「規範とは何か」を思い出してほしい。
- (2) われわれの社会が刑事裁判を何のために有しているか、考えてほしい。
- (3) 何かを暗記しようとするのではなく、受講する中で考え、自分の思想を作ってほしい。
- (4) メディア授業を受講するにあたっては、常に「六法全書」を手もとにおき、ひもといてほしい。
- (5) 地方裁判所の刑事裁判を傍聴してほしい(私の昼間スクーリングをとって頂ければ、「解説付き裁判傍聴」に参加できます)。

◆授業の計画

第1章 犯罪の成立要件	第9章 過失犯の成立要件
第2章 構成要件の全体像	第10章 未遂犯
第3章 不作為犯	第11章 中止犯
第4章 因果関係の課題	第12章 共犯と単独犯
第5章 相当因果関係説	第13章 共同正犯
第6章 故意犯	第14章 教唆犯・幫助犯
第7章 事実の錯誤	第15章 身分犯と共犯
第8章 過失犯の構造	

◆教科書

船山泰範 『刑法の礎・総論』 法律文化社

◆参考書(参考文献等)

船山泰範 『刑法学講話〔総論〕』 成文堂

古川元晴・船山泰範 『福島原発, 裁かれないでいいのか』 朝日新書

◆成績評価基準

試験(レポート)は80%, 理解度は20%で、全体として成績を評価する。

充当科目コード: K30800

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 2 学年以上

◆授業のねらい

従来、「刑法各論」とよばれてきた刑法典各則（第2編：罪の各規定）のうち、個人的法益に対する罪の規定について、理解を深め、現代社会における刑罰法規の妥当な解釈について考察する。

◆準備学修

授業を受ける前に教科書（補訂箇所を示した資料について、第1章序の授業で言及する）、参考書を熟読して、疑問点をノートするなどの作業をしておくことが必要である。刑法典もしばしば改正されるので、常に最新の六法全書を座右に置いて準備してほしい。

◆授業の計画

第1章 序 生命・身体に対する罪（Ⅰ） 第9章 財産に対する罪（Ⅳ）

第2章 生命・身体に対する罪（Ⅱ） 第10章 財産に対する罪（Ⅴ）
自由に対する罪（Ⅰ）第3章 自由に対する罪（Ⅱ） 第11章 財産に対する罪（Ⅵ）
私生活の平穩に対する罪

第4章 名誉に対する罪 第12章 財産に対する罪（Ⅶ）

第4章 信用及び業務に対する罪 第13章 財産に対する罪（Ⅷ）

第6章 財産に対する罪（Ⅰ） 第14章 財産に対する罪（Ⅸ）

第7章 財産に対する罪（Ⅱ） 第15章 財産に対する罪（Ⅹ）
個人的法益に対する罪まとめ

第8章 財産に対する罪（Ⅲ）

◆教科書

『法学刑法2（各論）』設楽裕文編 信山社 2010

◆参考書(参考文献等)

『法学刑法5判例インデックス1000』設楽裕文編 信山社 2012

『現代の判例と刑法理論の展開』板倉宏監修・著，沼野輝彦＝設楽裕文編

八千代出版 2014

◆成績評価基準

メディア授業受講状況(質疑応答, ディスカッション)5%, 理解度チェック15%, 最終試験80%

◇国文学講義Ⅴ(近代)MA -文学としての小説の確立と詩歌の近代化を中心に-
(開講単位数:2単位) 担当者:永岡 健右

充当科目コード : M30900

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆学修到達目標

明治維新以降、日本の近代化の歩みは急速に展開される。文学の近代化は西欧文明の移入や政治、経済あるいは教育制度、出版ジャーナリズムの変革及び確立の影響等を受けて急展開して行く。その過程で、小説及び詩歌・俳句を主軸とする日本人の意識の変化を検証する。

◆準備学修

本講義は「国文学講義Ⅴ(近代)」です。日本文学が上代、中古、中世、近世、近代、現代と時代区分され、その「近代」に該当する科目です。近代文学はそれまでの上代文学、中古文学、近世文学とどこがどのように変わっていったのか、本講義を聴講する前に考え、メモをとるなどして自分の文章でまとめてみておいて下さい。「与生」から「自我」、「個人主義」をキイ・ワードとして考えてみてください。

◆授業の計画及び方法

全十二章から構成される。

- 1 幕末維新の時代状況と文学
- 2 近代文学史の概観と文芸思潮（明治初期の時代性と文学の関わり）
- 3 政治小説の時代
- 4 「小説神髓」とその実践化
- 5 新体詩の移入・紹介とその後の展開
- 6 和歌史の概要
- 7 「御歌所」の設置とその背景
- 8 与謝野鉄幹の「亡国の音」
- 9 与謝野鉄幹の実作活動とその後の展開
- 10 正岡子規の「歌よみに与ふる書」
- 11 正岡子規の実践活動とその後の展開
- 12 正岡子規の俳句革新運動

◆教科書

特になし。

◆参考書

特になし。

◆成績評価基準

各種レポートの内容、受講状況、教科内容の理解度、試験（レポート形式）により総合的に評価する。

◇イギリス文学史 I MA（開講単位数:2単位）**担当者:原 公章**

充当科目コード：N20100

配当学科：全学科・専攻

配当学年：文学専攻（英文学）は1学年以上，その他は2学年以上

◆学修到達目標

黎明期から，17世紀末に至るイギリス文学の流れを概観する。重要な作品については，実際に作品からの抜粋を読む。

◆準備学修

通信教育教材『イギリス文学史 I N20100』に書かれている，17世紀末までの作家・作品の解説に目を通しておくこと。とくに，シェイクスピアとミルトンは重要である。

◆授業の計画

- 第1回 イントロダクション なぜ文学史を学ぶのか
- 第2回 アングロ・サクソン時代の文学
- 第3回 中世時代の文学（1）
- 第4回 中世時代の文学（2）
- 第5回 ルネッサンス時代の文学（1）
- 第6回 ルネッサンス時代の文学（2）
- 第7回 ルネッサンス時代の文学（3）
- 第8回 作品を読む—シェイクスピア
- 第9回 ルネッサンス時代の文学（4）
- 第10回 ピューリタン時代の文学（1）
- 第11回 ピューリタン時代の文学（2）
- 第12回 17世紀の詩
- 第13回 作品を読む—ミルトン
- 第14回 作品を読む—形而上詩人
- 第15回 再び，文学史を学ぶことについて

◆教科書

使用せず。

◆参考書(参考文献等)

『イギリス文学史 I N20100』通信教育教材（教材コード000111）。その他は，講義の中で紹介する。

◆成績評価基準

最終試験による。試験は2問併せて1600字前後（A4版両面使用可）にまとめること。あまり少なすぎても多すぎても不可。

充当科目コード：0445/N20200

配当学科：全学科・専攻

配当学年：文学専攻（英文学）は1学年以上，その他は2学年以上

◆学修到達目標

本講座では、英語の文法（ことばの規則）について、基礎的なレベルを定着させることを目的とする。最初は文法用語など、文法を学ぶ際の前提となる「用語」や「品詞」などについて説明をする。その後で、文の構成の基本となる名詞・代名詞・動詞の説明をし、英文法MB（後期にて開講）でのさらに複雑な他の品詞へと繋げていく。

◆準備学修

基本的な文法事項は事前に確認しておいてもらいたい。特に、品詞（形容詞・副詞・前置詞など）・文の働き（目的語・補語など）は、それぞれが基本的にどのようなものであるかを確認しておく方が、授業に入りやすい。受講時には、学修英和辞典・英文法書を手元に置いておく方が、理解が深まる。

◆授業の計画

- Chapter 1. Introduction (1): 文法とは何か、品詞と文の働き
- Chapter 2. Introduction (2): 日本語の文法と英語の文法、語句の結び付き
- Chapter 3. Types of Sentences (1): 様々な種類、平叙文
- Chapter 4. Types of Sentences (2): 疑問文、命令文、感嘆文
- Chapter 5. Nouns (1): 名詞とは、可算名詞・不可算名詞、名詞の性、名詞の格
- Chapter 6. Nouns (2): 名詞の種類、普通名詞、集合名詞、物質名詞、集合名詞、固有名詞
- Chapter 7. Pronouns (1): 代名詞とは、人称代名詞 (1)
- Chapter 8. Pronouns (2): 人称代名詞 (2)、指示代名詞、疑問代名詞
- Chapter 9. Pronouns (3): 不定代名詞、相互代名詞、some, any, no, every + -body, -one, -thing
- Chapter 10. Articles: 冠詞とは、冠詞の文法、冠詞の意味、総称文
- Chapter 11. Verbs (1): 動詞とは、動詞の文法的種類
- Chapter 12. Verbs (2): 5 文型、動詞の補部、状態動詞と動作動詞

◆教科書

山岡洋（2014）『新英文法概説』 開拓社。

◆参考書(参考文献等)

安藤貞雄（2005）『現代英文法講義』 大修館。

江川泰一郎（1991）『英文法解説』 改訂三版。金子書房。

綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン（2000）『ロイヤル英文法』 改訂新版。旺文社。

Swan, Michael (2005) *Practical English Usage*, 3rd ed., Oxford UP.

Thomson, A. J. and A. V. Martinet (1986) *A Practical English Grammar*, 4th ed., Oxford UP.

『ジーニアス英和辞典』（2006）第4版，大修館，東京。

『ウイズダム英和辞典』（2007）第2版，三省堂，東京。

Longman English-Japanese Dictionary (2007) Pearson, London.

◆成績評価基準

メディア授業受講状況（質疑応答，ディスカッション）20%，理解度チェック10%，最終試験70%。

※授業では，ワープロソフトとしてMicrosoft-Word を使用します。

充当科目コード：N20300

配当学科：全学科・専攻

配当学年：文学専攻（英文学）は1学年以上，その他は2学年以上

◆学修到達目標

この講義は英米文学史ではないから、英米文学全般にわたって、その思想や感情といった面の英国的長を考察、理解することを目標とする。いわば「英米文学の特質」といった講義だと思っていただければよい。なお、講義は小野寺健先生が担当し、その他の授業運営は猪野が担当します。

◆準備学修

イギリス文学史の知識があることを前提としているので、イギリス文学史の本を一冊通読しておくことが望ましい。イギリス文学史の本は、何でもよいが、『イギリス文学史』川崎寿彦（成美堂）を推薦しておく。文学史で触れられている作品を翻訳（出来れば原書で）でもよいので一冊でも多く読んでおくことが望ましい。

◆授業の計画及び方法

- (1) アングロ・サクソン文学
- (2) 初期のキリスト教文学とChaucerの世界
- (3) Shakespeareの世界
- (4) 英文学における宗教と文学—MiltonとBunyan
- (5) 散文文学の発達—DefoeとSwift
- (6) 英国の詩—形而上派・古典主義
- (7) 人間的関心(1)：常識とユーモア—Dr Johnson, Goldsmith: The Vicar of Wakefield
- (8) 人間的関心(2)：小説の誕生とロマン主義の復活—4 大作家, ロマン派の詩人たち, ゴシック・ロマンスと超常現象趣味
- (9) リアリズムの精神と小説の隆盛(1) —産業革命とヴィクトリア朝文化：Austen から Brontes 姉妹まで
- (10) リアリズムの精神と小説の隆盛(2) —G. Eliot からHardy まで
- (11) 美の追求と自然主義・社会主義の文学—第一次大戦後まで
- (12) 20世紀英文学の課題—自然, 政治的信条, 信仰, 福祉社会, 植民地

◆教科書

この講義は、従来の教科書を用いてのものとはまったく別の講義なので、この講義だけが教科書だと思っていただきたい。したがって、講義を聴きながら適当にノートをとることをお勧めする。

◆参考書

理想的な参考書は、考えてみれば、講義でとりあげられた作品である。できるだけ沢山、翻訳でもよいから原作を読むことをお勧めする。それでも補足的なものをという方のために、数点だけ挙げておく。それに出ている文献書誌をぜひ活用なさるとよい。

吉田健一著 『英国の文学』岩波文庫

小池 滋編 『イギリス』新潮社

小池 滋著 『英国らしさを知る事典』東京堂

小野寺健著 『英国的経験』筑摩書房

小野寺健著 『イギリス的人生』ちくま文庫 筑摩書房

◆成績評価基準

受講状況(20%)、理解度チェック(20%)、最終試験(60%)。
理解度チェックをすべて提出していることを前提に評価します。

充当科目コード：N30300

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか、歴史的な流れの基礎的な知識を習得する。過去の歴史を振り返り、英語の未来の姿を想像してみましょう。

◆準備学修

特別なし。

◆授業の計画

第1部 英語の発達

第1章 インド・ヨーロッパ語族（1）—IE 祖語とIE 語族

第2章 インド・ヨーロッパ語族（2）—IE の語派

第3章 ゲルマン語派（1）—Gmc の特徴

第4章 ゲルマン語派（2）—Gmc の分類

第5章 古英語（1）—アングロ・サクソン族の渡来

第6章 古英語（2）—OE の特徴

第7章 古英語（3）—語彙（語形成と借用語）

第8章 中英語（1）—時代背景

第9章 中英語（2）—ME の特徴

第10章 現代英語（1）—時代区分，その背景

第11章 現代英語（2）—ModE の特徴

第12章 現代英語（3）—借用語，アメリカ英語など

◆授業の方法

メディアを利用して聴講，ディスカッションボードでの意見交換，理解度チェック，試験を提出。

◆教科書

『英語史 N30300』通信教育部教材（教材コード000117）

（※特に第8章以降）

◆参考書(参考文献等)

『図説英語史入門』中尾俊夫・寺島廸子著 大修館書店

『英語の歴史』中尾俊夫著 講談社現代新書958

『英語の歴史—過去から未来への物語』寺澤 盾著 中公新書 1971

◆成績評価基準

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。理解度チェックは2回とも必ず提出してください。

充当科目コード：N30600

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

本講義の目的は次の2つに大別される。ひとつは、話しことばとしての英語の主要な特徴を学ぶことを通して、人間の音声コミュニケーションについての理解を深めることである。音声言語という観点から、英語と日本語の言語としての特徴を探り、英語らしさ・日本語らしさについての考えを発展させてほしい。もうひとつの目的は、英語音声を自覚的に運用するための音声学の視点を身につけることである。自身の英語発音や日本語発音についてじっくりと内省・観察し、英語の発音習慣を獲得するための基礎づくりと英語音声の総合的理解を目指してほしい。

◆準備学修

英語音声（や日本語音声）について、日頃、不思議に思っていること（＝疑問点）や、難しいと感じる英語発音の区別、聴き取りで難しさを感じる点など、広い意味での「英語音声（や日本語音声）についての感想・疑問」を、事前に書き出しておくこと。普段感じている疑問点を、音声学の観点から、講義期間中に探究してほしい。

◆授業の計画

英語音声学MAでは、日本語音声を出発点として、音声言語を観察・分析・記述する枠組みと英語の標準発音の分節的特徴を概説する。

- 1) 話しことばの科学
- 2) ことばを生み出す身体器官
- 3) 音声記述の枠組み（1）：日本語子音の調音；国際音声字母（IPA）
- 4) 音声記述の枠組み（2）：基本母音；日本語母音の調音
- 5) 音韻論の基本概念（1）：音素と異音
- 6) 英語の母音
- 7) 英語の子音
- 8) 音節
- 9) 英語音声の観察と発音練習（1）
- 10) 英語音声の観察と発音練習（2）
- 11) 音韻論の基本概念（2）：英語の異音規則
- 12) 日英語の音声・音韻体系と音声転移

◆授業の方法

受講者各自が、メディア授業の受講と理解度チェックを計画的に進めることが中心となる。学修時には講義用ディスカッションボードを必ず閲覧するとともに、積極的に利用して受講者間で意見交換を行い、英語音声・音韻体系についての理解を深めてほしい。

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

メディア授業「英語音声学」の各章に掲載。

◆成績評価基準

最終レポート試験を中心に、メディア授業受講状況・理解度チェック・講義用ディスカッションボード参加状況を加味して、総合的に評価する。

充当科目コード：N30700

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2 学年以上

◆授業のねらい

言語学の一分野としての英語学が、どのような学問分野であるか、その全体像を理解する。具体的には、英語学という学問の存在意義やその下位分類としてどのような学問分野が存在するのか、そしてそれぞれの学問分野は概略どのような内容であるのかを、概略で説明する。この講座では、中でも、音と意味に関する学問分野を紹介していく。

◆準備学修

下記に挙げる参考書に目を通しておくこと。

◆授業の計画

第1章 英語学とは -言語学の中の英語学-

第2章 音の研究 -音声学と音韻論-

第3章 音声学 (1)

第4章 音声学 (2)

第5章 音韻論 (1)

第6章 音韻論 (2)

第7章 音韻論 (3)

第8章 音韻論 (4)

第9章 意味の研究

第10章 意味論 (1)

第11章 意味論 (2)

第12章 意味論 (3)

第13章 意味論 (4)

第14章 語用論 (1)

第15章 語用論 (2)

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

『日英語対照による英語学概論』 西光義弘 編，くろしお出版，1999.

『ことばの仕組みを探る：生成文法と認知文法』原口庄輔・中島平三・中村捷・河上誓作 編，2000.

『英語学入門』安藤貞雄・澤田治美 編，開拓社 2001.

『日英対照 英語学の基礎』三原健一・高見健一 編，くろしお出版，2013.

◆成績評価基準

メディア授業受講状況（質疑応答，ディスカッション）20%，理解度チェック10%，最終試験 70%

◇東洋史概説MA（開講単位数:2単位）**担当者:高綱 博文**

充当科目コード：法学部はK32300（東洋史概論）

法学部以外はQ30300（東洋史概説）

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

中華帝国の解体からネーション・ステートとしての再生の歴史ドラマをたどることによって、近代中国の苦悩を理解し世界の中における中国とは何であるかについて考える。

◆準備学修

最新の概説書である『シリーズ中国近現代史①～⑤』（岩波新書，2010～2011年刊行）を学修しておくことが望ましい。

◆授業の計画及び方法

メディアを利用した授業を中心としながら、テキスト及び参考書等による自己学修を併用する。

- 1) 中国概論
- 2) アヘン戦争
- 3) 太平天国運動
- 4) 洋務運動と変法運動
- 5) 辛亥革命
- 6) 五・四運動
- 7) 国民革命
- 8) 満洲事変
- 9) 日中全面戦争
- 10) 中華人民共和国の誕生
- 11) 文化大革命
- 12) 改革・開放政策化の中国

◆教科書

『東洋史概説 Q30300／東洋史概論 K32300』 通信教育教材（教材コード000523）

※平成29年3月1日（水）以降に教科書を配本・購入される場合は、上記（教材コード000523）教科書となります。

『東洋史概説 Q30300／東洋史概論 K32300』 通信教育教材（教材コード000146）

◆参考書(参考文献等)

『現代中国の歴史』久保亨他 東京大学出版会 2008年詳しい参考書・参考文献については、各テーマごとに掲げる。

◆成績評価基準

メディア授業受講状況（質疑応答，ディスカッション）25%，理解度チェック25%，最終レポート試験50%

充当科目コード：R20300

配当学科：全学科・専攻

配当学年：経済学部は1学年以上，その他は2学年以上

◆学修到達目標

専門科目としての「経済学」の導入教育を目的としている。『経済学概論MA』では、その内のミクロ経済学の範囲をカバーしている。ミクロ経済学は、個別主体の最適化行動と市場での資源配分を分析の対象とする。この講義では、人々の自由な経済活動が効率的な資源配分を達成することを説明する。

◆準備学修

経済学への導入を目的としているので、経済学の予備知識を前提としないが、高等学校教育課程での「公民」および「政治経済」の知識があることが望ましい。また、数学の知識として、「1次式」のグラフと「微分」の知識があることが望ましい。

◆授業の計画及び方法

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 需要と供給 | 7 企業行動：費用最小化 |
| (1) ミクロ経済学とはなにか | (1) 等量線 |
| (2) 需要と供給 | (2) 等費用線 |
| (3) 市場均衡 | (3) 費用最小化 |
| 2 家計の行動 | 8 競争均衡 |
| (1) 予算制約 | (1) 完全競争市場 |
| (2) 選好と無差別曲線 | (2) 市場メカニズム |
| (3) 最適消費計画 | (3) 最適資源配分 |
| 3 最適選択 | 9 不完全競争：独占 |
| (1) 所得変化と消費需要 | (1) 不完全競争市場 |
| (2) 代替効果と所得効果 | (2) 独占市場 |
| (3) 需要曲線 | (3) 独占的競争市場 |
| 4 無差別曲線分析の応用 | 10 不完全競争：寡占 |
| (1) 初期保有と最適選択 | (1) 寡占市場 |
| (2) 労働市場 | (2) ゲーム理論とナッシュ均衡 |
| (3) 消費と貯蓄の最適配分 | |
| 5 企業行動：利潤最大化 | 11 不確実性 |
| (1) 技術の制約 | (1) 不確実性と期待効用 |
| (2) 生産関数と限界生産物 | (2) リスクと保険 |
| (3) 利潤最大化 | (3) 不完全情報と市場 |
| 6 企業行動：費用曲線 | 12 政府と市場の役割 |
| (1) 総費用 | (1) 市場の失敗 |
| (2) 限界費用と平均費用 | (2) 外部効果 |
| (3) 利潤最大化 | (3) 公共財 |
| (4) 供給曲線 | (4) 政府の介入 |

◆教科書

『経済学概論 R20300』通信教育教材（教材コード000244）

◆参考書

『経済学 B11800』通信教育教材（教材コード000450）

『価格理論 R30300』通信教育教材（教材コード000352）

関谷喜三郎著『ミクロ経済学』創成社

◆成績評価基準

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

充当科目コード：R31100

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

このメディア授業では、国際経済学に関する基礎理論およびその政策論関連内容を中心に解説を進めていく。メディア授業の素材構成は本通信教育教材『国際経済論』の第1章と第2章に基づいている。講義の進め方は具体的には、世界経済発展の歴史、ことに戦後の国際通貨秩序の確立および自由貿易体制の形成、経済構造の変質そして国際通貨制度の変遷を踏まえ、基礎理論としての比較優位の理論、国際貿易に関する純粋理論および国際貿易政策について逐次に解説する。

インターネットを利用したの受講を前提とするこのメディア授業は解説中心型の進め方を採っている。国際経済学はやや抽象度の高い学問ではあるが、テキスト、参考書および各章ごとの自己点検問題の反復学修によって、より高い学修効果が得られる。ディスカッションボード（掲示板）が用意されており、担当教員への質問や学生同士の学修情報交換も学修に大いに役立つ。メディア授業の特性を活かして開かれた学修環境を目指して、担当教員として皆さんの高い勉学意欲を精一杯サポートする。

◆準備学修

国際経済論は応用経済学分野の科目である。経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前にミクロ経済学関連の基礎理論を復習すること。

◆授業の計画及び方法

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 第二次大戦までの世界経済の生成と発展 | ⑦ 近代的貿易理論 |
| ② 戦後の世界経済の発展とその特徴 | ⑧ 国際貿易の純粋理論による説明—その1 |
| ③ 戦後の経済体質と経済構造の変質 | ⑨ 国際貿易の純粋理論による説明—その2 |
| ④ 1990年代以降の世界経済の変貌 | ⑩ 関税と経済厚生 |
| ⑤ 伝統的貿易理論 | ⑪ 輸出入政策と管理貿易 |
| ⑥ 新古典派の貿易理論 | ⑫ 自由貿易と保護貿易 |

◆教科書

『国際経済論 R31100』通信教育教材（教材コード000281）

◆参考書(参考文献等)

メディア授業の進捗状況に合わせて随時紹介する。

◆成績評価基準

平常点60%（200字程度のレポート形式の理解度チェック4回40%、メディア授業の受講状況20%）と最終試験40%による総合評価。

充当科目コード：R32300

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上が対象

◆学修到達目標

情報機器やデジタル家電製品の基本となるコンピュータのハードウェア，ソフトウェアの仕組みと原理の基礎を把握することを目的としている。通常は意識せずに利用している情報化技術についての正しい知識を得ることにより，ビジネスや日常生活において，情報を効率よく安全に利用できる能力を高めることをめざす。コンピュータの初心者を対象としている。

◆準備学修

理解度チェックは授業の内容をベースにしていますが，応用的な問題を出題することがあります。参考書やwebなどを活用して，プラスアルファの知識を得ることで，授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。

◆授業の計画及び方法

- 1 コンピュータの構造
- 2 CPU の動作原理
- 3 演算処理
- 4 情報量
- 5 マルチメディア表現
- 6 データ通信
- 7 オペレーティングシステム
- 8 表計算
- 9 データベース理論
- 10 データベース記述
- 11 プログラミングの基礎
- 12 アルゴリズム

◆教科書

『情報概論 R32300』 通信教育教材（教材コード000453）

◆参考書

I Tパスポート試験教科書（出版社不問）

基本情報技術者試験教科書（出版社不問）

◆成績評価基準

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し，総合的に評価します。

充当科目コード：S20100

配当学科：全学科・専攻

配当学年：商学部は1学年以上，その他は2学年以上

◆学修到達目標

商学とは何か，商学総論の全体像がどのような内容で構成されているかについては，論者によって多様な考え方があり，統一的な体系は今なお存在していませんが，この授業では，社会経済的な視点より商学を捉え，個別経済とは異なった商品の社会的移転に関する諸問題を解明することを目的とします。

◆準備学修

特に必要としない。

◆授業の計画及び方法

第1章 商業とは何か，商業の多様な概念，商業学説について学びます。

1 主な商業学説 2 商業概念の二義 3 商業の関連用語

第2章 流通の研究対象と研究方法について学びます。

1 商業の研究対象 2 伝統的研究方法 3 その他の研究方法 4 二つの研究方法

第3章 1956年以降，現代の研究手法について学びます。

1 マネジリアル・アプローチ 2 システムズ・アプローチ
3 インターデシプリナリー・アプローチ 4 ソーシャル・アプローチ
5 メタ・マーケティング・アプローチ

第4章 経済発展段階に基づいて流通の生成と発展について学びます。

1 自給自足経済と商品の移転 2 交換経済の成立
3 市場経済の成立 4 商業排除の傾向

第5章 現代の流通特性，流通の変革傾向について学びます。

1 商店数の減少 2 業態の多様化
3 製品輸入の拡大と輸入形態の多様化 4 取引慣行の変化

第6章 流通の取引対象，流通の客体について学びます。

1 流通における商品概念 2 商品の分類方法

第7章 商業研究の潮流，展開過程について学びます。

1 欧州における商業の研究 2 アメリカにおけるマーケティングの研究
3 わが国における商業の研究

第8章 商業，流通の社会的存在の意義を明らかにする流通の機能について学びます。

1 流通機能の意義 2 諸学者の流通機能分類

第9章 流通の本質的，本源的機能である需給統一機能について学びます。

1 需給統一の意義 2 需要情報の収集
3 商品調節（マーチャンダイジング） 4 供給販売情報の伝達 5 売買取引の成立

第10章 商品に具体的移転である物的流通（物流）の機能について学びます。

1 物流研究の意義 2 物流の二義 3 物流の経済的機能

第11章 物流効率化を規定する物流システム化策について学びます。

1 物流システム化の意義 2 物流システム化策 3 ユニット・ロード・システム

第12章 資本主義経済では欠くことのできない資本的機能について学びます。

1 金融的機能 2 保険的機能

◆教科書

『商学総論 S20100』通信教育教材（教材コード000356）

◆参考書

特に指定しない。

◆成績評価基準

メディア授業への受講状況，理解度チェックの提出状況，最終試験（レポート形式）などにより総合的に評価します。

充当科目コード：S20200

配当学科：全学科・専攻

配当学年：商学部は1学年以上，その他は2学年以上

◆学修到達目標

現代社会において企業が果たしている役割やその影響力の大きさは絶大なものがあります。企業経営のあり方如何が，国の経済力や国際的競争力のみならず，我々個々人の生き方や暮らしぶりを大きく左右します。その意味で，企業の行動原理やメカニズム，企業行動の問題点や改善策などについて学ぶことは，単に経営者や管理者だけでなく，企業との関わり抜きでは生きてゆけないすべての現代人にとって必要なことです。この講義を通じて，そもそも企業とはいかなる存在であり，どのような指導原理やメカニズムで行動しているのかを学び，健全で有効な企業経営のあり方について考えてほしいと思います。

◆準備学修

新聞，経済誌（日経ビジネス，週刊東洋経済，週刊ダイヤモンド，週刊エコノミストなど）を丹念に読み，授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ，自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。

◆授業の計画

- 1 経営学とはどのような学問か（研究対象，学的性格，研究方法）
- 2 現代産業社会の特質（グローバル化，情報ネットワーク社会，地球環境問題，少子高齢化社会，価値観・労働観・ライフスタイルの変化）
- 3 企業・会社の概念と形態
- 4 企業における所有・経営・支配の関係，コーポレート・ガバナンス
- 5 企業集団と系列
- 6 企業目的と経営目標
- 7 経営戦略の概念と体系，ドメインの定義，垂直統合と多角化
- 8 経営資源の蓄積と配分，PPM，競争戦略，組織間関係戦略
- 9 経営組織の諸形態
- 10 経営組織の理論（官僚制，近代組織論，コンティンジェンシー理論，知識創造モデル）
- 11 経営管理
- 12 企業文化

◆教科書

使用しない

◆参考書(参考文献等)

『経営学 S20200』通信教育教材（教材コード000271）

※平成29年3月1日（水）以降に上記参考書を配本・購入される場合は，教材コードが『000497』となります。

『経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本』

経営学検定試験協議会監修，経営能力開発センター編 中央経済社，2016年

◆成績評価基準

最終試験を中心に，受講状況や理解度チェックなどを加味し，総合的に評価します。

充当科目コード : 0854/S20300

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 商学部は1学年以上, その他は2学年以上

◆学修到達目標

簿記の基本原理は、今から約500年程前のルネッサンス時期、イタリアのルカ・パチョリによって体系化された。今では、この複式簿記の基本原理が全世界に普及している。

本授業の目的は、企業のさまざまな取引を複式簿記の原理にもとづいて仕訳し、財務諸表（貸借対照表、損益計算書）作成までの一連のプロセスを学ぶことである。最終的には、この授業を受講することによって、日商簿記検定試験3級の資格を取得することを目的とする。

◆準備学修

しばしば簿記を「高等数学」のように錯覚し、数回の学修で「簿記アレルギー反応」を起こす人がいる。そうならないためには、具体的な簿記の仕訳を学修する前に、貸借対照表と損益計算書の基本構造と資産、負債、資本（純資産）、収益、費用の用語をしっかりと理解することが大切である。

◆授業の計画

本授業は日商簿記検定試験3級レベルの解説を行う。その内容は下記に示したとおりである。

- | | | |
|----------|--------------|---------------|
| 1. 簿記の概要 | 2. 複式簿記の構造 | 3. 複式簿記一巡の手続き |
| 4. 商品 | 5. 現金・預金 | 6. 売掛金・買掛金 |
| 7. 有価証券 | 8. 受取手形・支払手形 | 9. 固定資産 |
| 10. 伝票 | 11. 決算 | 12. 総まとめ |

◆授業の方法

まず、各章の概要を「導入」で説明し、内容の説明、例題の解説、そして設定している問題を実際に解く。しかし、これだけでは不十分であるので、各人で市販されている問題集を利用して解いていただきたい。より多くの問題をこなせば、簿記に対する理解は格段に向上する。

◆教科書

『簿記論 I S20300』通信教育部教材（教材コード000454）

◆参考書(参考文献等)

渡部・片山・北村編著『検定簿記講義 3級商業簿記』中央経済社

渡部・片山・北村編著『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』中央経済社

◆成績評価基準

簿記は、一段階ずつ理解しながらステップアップするものである。したがって、メディア授業の受講状況を40%、理解度チェック20%、最終試験を40%として総合的に成績評価を行いたい。

※授業では、Microsoft-Word 及びMicrosoft-Excel を使用します。

充当科目コード：S30400

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

国際貿易，国際収支，外国為替，海外直接投資に関する日本経済・世界経済の諸問題について，基礎的な知識と分析能力を養うことを狙いとします。主なトピックは以下の通りです：（１）日本の対外取引の現状，（２）貿易の利益と国内問題，（３）貿易実務の基礎，（４）国際収支，（５）外国為替市場と為替レート，（６）海外直接投資。

◆準備学修

普段から新聞・雑誌やテレビ・インターネットの（経済）ニュースに目を通して，日本経済・世界経済に関する時事問題についての知識を深めておくと，講義の理解に役立ちます。講義で用いる経済学のツールは講義第３章でも説明しますが，事前に経済学の入門テキスト（参考書参照）に目を通しておくと，講義をさらに理解しやすくなります。

◆授業の計画及び方法

- 第1章 データでみる日本の貿易
- 第2章 比較優位の原理I－リカードの貿易理論
- 第3章 需要と供給－需要曲線・供給曲線を用いた市場分析
- 第4章 比較優位の原理II－ヘクシャー・オリーンの貿易理論
- 第5章 自由貿易と保護主義
- 第6章 貿易の流れ（貿易実務入門）①
- 第7章 貿易の流れ（貿易実務入門）②－貿易手続きの電子化
- 第8章 国際収支①－国際収支表
- 第9章 国際収支②－経常収支と国民所得勘定
- 第10章 為替レートと外国為替市場①－外国為替市場と為替リスク
- 第11章 為替レートと外国為替市場②－為替レートと経常収支，産業調整
- 第12章 海外直接投資と貿易構造

◆教科書

『貿易論 S30400』通信教育教材（教材コード000439）

◆参考書

- (1) N. グレゴリー・マンキュー著，足立ほか訳『マンキュー入門経済学（第2版）』東洋経済新報社，2014年
- (2) 清水純子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説国際金融～理論から実践まで』日本評論社，2016年

◆成績評価基準

メディア授業受講状況（質疑応答，ディスカッション）25%，理解度チェック25%，最終レポート試験50%

充当科目コード：T10100

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにしていきたい。

◆準備学修

この授業では教員養成の段階で学んでおくべき事項や学校現場で直面する課題を「題材（教材）」としてとりあげ、学んでいきます。周囲に存在する様々な教育問題、教育に関する話題・情報について関心をもち「教師としてどうするべきか」と考える習慣をつけましょう。

◆授業の計画

- 第1章 教職の教育—教員養成と現職教員の成長
- 第2章 教師の仕事—教科指導・生活指導・学級経営
- 第3章 子ども（生徒）とのかかわり—生徒理解と授業の前提条件
- 第4章 様々な集団への対応(1)—集団活動を通じて学んでいく生徒たち
- 第5章 様々な集団への対応(2)—集団指導・グループ学修の方法論
- 第6章 最近の子ども事情(1)—非行・ストレス・いじめ
- 第7章 最近の子ども事情(2)—不登校への対応
- 第8章 教員養成の歴史(1)—戦前の教員養成
- 第9章 教員養成の歴史(2)—戦後の教員養成
- 第10章 世界の教員養成
- 第11章 教員に関する法令—地位、身分、研修、免許更新制
- 第12章 教室に立つために—教育実習と学修指導案の構成

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

- 『現代教職論 T10100』通信教育教材（教材コード000418）
- 『求められる教師像と教員養成』山崎英則・西村正登編著（ミネルヴァ書房）
- 『転換期の教師』油布佐和子（放送大学教材）

◆成績評価基準

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇教育原論／教育の思想M（開講単位数:2単位）**担当者:北野 秋男**

充当科目コード：平成23年度1学年入学生，平成24年度1学年入学生，2学年編・再入学生，平成25年度1学年入学生，2・3学年編・再入学生，平成26年度全入学生及び科目履修生はT10200(教育原論)
上記以外の学生はT10300(教育の思想)

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

私たちが日常的に経験する教育現象や教育言説は自明なものとして認識され、疑いを持って考察されることはほとんどありません。本講義では、こうした教育現象や教育言説のあり様を思想史的に学び、理解することを目指します。教育思想の根源をたどりながら、現代にも通底する教育の営みを批判的に考えてみたいと思います。

◆準備学修

指定された教科書を丁寧に通読すること。その際には、まずは教育思想家が登場する歴史的背景や理論を通史的に大まかに理解しておくこと。次に、各思想家の思想を通読し、何を問題とし、何を変革しようとしたかを理解しておくこと。

◆授業の計画

- (1) なぜ教育思想を学ぶのか
- (2) コメニウスの教授学 ――斉教授の方法―
- (3) ロック自律論 ―人間の理性による自律―
- (4) ルソーの市民教育 ―子どもの発見―
- (5) ペスタロッチの人間教育 ―直観教授の確立―
- (6) ヘルバルトの科学的教育学 ―教授過程の定型化―
- (7) フレーベルの幼児教育 ―幼稚園の創設―
- (8) マンの公教育普及論 ―教育を受ける権利思想―
- (9) デューイの新教育思想 ―児童中心の教育―
- (10) ニールの自由主義教育論 ―フリー・スクールの創設者―
- (11) ブーバーの教育的出会い ―教師と子どもとの関係―
- (12) イリイチの脱学校論 ―自由な学修機会の保障―

◆授業方法

各章ごとに代表的な教育思想家を取り上げ、現代にも通底する教育思想の根源をたどります。主なる内容は、教育の目的論と教授理論の展開ですが、各思想家の教育思想を学びながら、現代の教育のあり方も考察することが重要です。理解度チェックなどを使って、各自が自分の学修内容を確認することを勧めます。

◆教科書

『教育の思想 T10300』通信教育教材（教材コード000199）

◆参考書

特になし

◆成績評価基準

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。
(受講状況(20%)・理解度チェック(30%)・試験(50%))

充当科目コード：T20200

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

本講義は、第1部は我が国の学校制度・教育制度の現状や課題を分かり易く解説する。第2部は、我が国の教育行政制度の基本と諸外国の教育制度の比較検討を行う。第3部は、教育制度の特殊な問題として、ジェンダー問題と情報公開制度を取り上げる。最後に、我が国の教育制度改革の動向を概括しながら、我が国の教育制度改革の動向と将来の課題をさぐる。

◆準備学修

指定された教科書を丁寧に通読すること。その際には、日本の教育制度の特徴や問題点を念頭に置きながら読み進めること。新自由主義的な方向へと進むわが国の教育改革の全体像をおおまかに理解しておくこと。

◆授業の計画

第1部

- (1) 教育制度の理念と構造
- (2) 学校の制度と組織
- (3) 教室内の制度と組織
- (4) 学校歴偏重から生涯学修への移行
- (5) 私立学校の制度と組織

第2部

- (6) 戦後日本の公教育政策・制度
- (7) 日本の中央・地方教育行政
- (8) アメリカの教育制度
- (9) アジアの教育制度

第3部

- (10) ジェンダー問題と女子教育
- (11) 教育情報と情報公開制度
- (12) 我が国の教育制度改革の動向

◆授業方法

我が国の学校制度・教育制度の問題を、広く世界的な視野から考える。欧米の教育制度とも比較しながら、学校制度・教育制度の基本的な問題を検討する。授業の形態は講義形式であるが、授業中に課題を与え、その課題をまとめるという作業も行う。

◆教科書

北野秋男編『教育制度論 T20200』通信教育教材（教材コード000285）

◆参考書

特になし

◆成績評価基準

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価する。

〈受講状況(20%)・理解度チェック(30%)・試験(50%)〉

◇特別活動論／特別活動の研究M（開講単位数:2単位）**担当者：関川 悦雄**

充当科目コード：平成23年度1学年入学生，平成24年度1学年入学生，2学年編・再入学生，平成25年度1学年入学生，2・3学年編・再入学生，平成26年度全入学生及び科目履修生はT21500(特別活動論)
上記以外の学生はT21600(特別活動の研究)

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

現在学校の課外活動として行われている特別活動が教育課程の中でどのように位置づけられ、青年期の人間形成においていかなる意味をもつか，その特別活動が戦前どう取り扱われ，戦後いかなる過程を経て成立したか，について考察している。そして，今日の学校教育の中で展開されている特別活動がどのような目標をもっているか，個別の活動分野として，学級・ホームルーム活動，生徒会活動，学校行事がどのようなものであるかを考察する。

◆準備学修

受講される皆さんは，自分の中学校・高校時代の教科外活動—たとえば学級・ホームルーム活動，入学・卒業式，生徒会活動，修学旅行，運動会・部活動など—の体験を思い起こし，その体験に何らかの意味を見出しつつ，本授業に臨んで下さい。「教育課程」に関する理解のみがやや難しい程度である。

◆授業の計画及び方法

- 第1章 「特別活動の研究」はどんな科目か，またどうしてそれを学ぶのか
- 第2章 教育課程と課外活動（特別活動）の関係
- 第3章 教育的価値として認められた課外活動の実例（1） —遠足と運動会—
- 第4章 教育的価値として認められた課外活動の実例（2） —学芸会と相談会—
- 第5章 課外活動（特別活動）の教育課程化とその条件
- 第6章 自由研究の新設と特別教育活動への移行
- 第7章 特別活動の成立とその後の歩み
- 第8章 2008年の学修指導要領の改訂
- 第9章 特別活動の改訂と目標
- 第10章 学級活動の目標・内容・内容の取扱い
- 第11章 生徒会活動の目標・内容・内容の取扱い
- 第12章 学校行事の目標・内容・内容の取扱い

◆教科書

『特別活動の研究 T21600』通信教育部教材（教材コード000443）

※この教材は市販の『最新 特別活動の研究』関川悦雄著（啓明出版）と同一です。

◆参考書

特になし

◆成績評価基準

受講状況（30%），理解度チェック（30%），試験（40%）。理解度チェックをすべて提出していることを前提に評価します。

充当科目コード：T21700

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆学修到達目標

教育方法に関する理論の展開を歴史的に理解して、今日の学校教育に必要な教授方法と技術に関する基礎的知識を獲得する。さらに、学校教育における今日的課題に対応できる教師としての技能を高めるために、教育の技術的テーマに関する課題を検討する。

◆準備学修

教育方法学と密接に関係する「教育原論」や「教育の歴史」を事前に履修しておくことが望ましい。また、16世紀以降のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的な知識を養うことができる書籍を読んでおくことを勧める。

◆授業の計画及び方法

- 第1章 教育方法学とはどんな学問か
- 第2章 わが国の教育方法学研究の歴史
- 第3章 学校教育とカリキュラム
- 第4章 授業の形態と集団の編成・指導
- 第5章 授業形態の多様化
- 第6章 学級編成と学級運営
- 第7章 小集団指導
- 第8章 教育の技術とはなにか
- 第9章 授業の展開
- 第10章 授業の展開を豊かにする物的手段
- 第11章 教育評価
- 第12章 教育の方法

◆教科書

『教育の方法・技術論 T21700』通信教育教材（教材コード000341）

◆参考書

- 『教育の方法と技術』沼野 一男著（玉川大学出版部）
- 『教育の方法と技術を探る』大野木 裕明・森田 英嗣・田中 博之著（ナカニシヤ出版）
- 『教育方法学』佐藤 学著（岩波出版）
- 『授業』斎藤 喜博著（国土社）
- 『教育学の名著 12 選』梅根 悟・長尾 十三二著（学陽書房）
- 『教育方法』細谷 俊夫著（岩波全書）

◆成績評価基準

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇国文学演習MA－万葉集の説話歌を読む－（開講単位数：1単位） 担当者：近藤 健史

充当科目コード：M404S0（国文学演習Ⅰ）

M405S0（国文学演習Ⅱ）

M406S0（国文学演習Ⅲ）

M407S0（国文学演習Ⅳ）

M408S0（国文学演習Ⅴ）

M409S0（国文学演習Ⅵ）

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科：文理学部文学専攻（国文学）のみ

配当学年：3学年以上

◆学修到達目標

万葉集の説話歌についての理解を深めるとともに、調査、研究、発表などを通じて、国文学研究の基本的な方法や論文の読み方など、基礎的な力を養うことをねらいとする。

◆準備学修

万葉集について、特に万葉人の生活や風習など概説的なことを学んでおいて欲しい。

◆授業計画及び方法

<計画>

(1) はじめに

(2) 国文学演習入門

(3) 万葉集入門

(4) 説話歌入門

(5) 学生による研究報告（12章まで）

「妻争伝説歌」 「説話歌の美女」

「虫麻呂歌の女性像」 「水江浦島児の歌」

「真間手児奈伝説歌」 「竹取翁歌」

などに関して8テーマについて研究する。

<方法>

万葉集における説話歌を読み、調査、研究した結果をメディア（パソコン）を利用して発表する。各テーマに関する先行研究を整理した上で、自分独自の見方・考え方を報告して欲しい。初めは講義を行うが、学生個々による発表と質疑の形式にする。

なお、人数によりグループによる発表形式もある。自宅にいて、パソコンを通じて演習をするという新しい形ゆえ、楽しくやりたいと思っている。

◆教科書

『訳文 万葉集』森 淳司編 笠間書院

◆参考書

授業中（パソコン）内の参考文献で指示してある。

◆成績評価基準

発表内容60%，質疑応答内容20%，レポート20%による評価。

※既にメディア授業で当該講座に合格した学生は、受講できません。

充当科目コード：P401S0・P402S0

配当学科：哲学専攻

配当学年：3 学年以上

◆授業のねらい

哲学演習 MA は、卒業論文制作に向けての演習授業です。この演習は、講義と実践を組み合わせで行います。この演習を通して、受講生は論文制作のための技術を学び、卒業論文の制作を進めていきます。すでに卒業論文に着手している受講生の場合は、演習を通して、現在製作中の卒業論文を練り上げるのに役立ててください。この演習は、「哲学」演習という名前ではありますが、「倫理学」や「宗教学」の分野での卒業論文執筆を考えている学生にとっても有益です。なぜなら、本演習を通して、学ぶ論文の形式や作成方法は、非常に基礎的なものだからです。したがって、「哲学」専攻の学生のための「演習」と考えていただければと思います。

◆準備学習

ご自身の卒業論文でどのような問題を扱うか考えておいてください。どのような問題を扱うか明確でない人は、どのようなことに興味があるか考えておいてください。発表の回で必要になってきます。

◆授業の計画

- 第1章 哲学演習MAのねらい
- 第2章 論文とはどのような文章表現か
- 第3章 論文の構成
- 第4章 問題と主張と論拠について
- 第5章 発表1 問題と主張と論拠を作る
- 第6章 先行研究を調べる
- 第7章 説明を考える
- 第8章 アウトラインを作る
- 第9章 体裁を整える
- 第10章 発表2 参考文献表の作成
- 第11章 パラグラフについて
- 第12章 要約を作る
- 第13章 批判的な視点をもつ
- 第14章 発表3 パラグラフを意識しながら、要約を作る
- 第15章 最終発表 アウトラインを作る

◆教科書

使用しません。

◆参考書(参考文献等)

- 木下是雄『レポートの組み立て方』筑摩書房、1994年
- 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHK出版、2012年
- 野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年

◆成績評価基準

3回の発表と最終発表（相互評価が必要な場合はそれを含む）を中心に、受講状況、質疑応答内容などを加えて、総合的に評価します。

◇日本史演習MA（開講単位数:1単位）**担当教員:鍋本 由徳**

充当科目コード：Q401S0（日本史演習Ⅰ）， Q402S0（日本史演習Ⅱ）

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科：文理学部史学専攻のみ

配当学年：3学年以上

◆学修到達目標

卒業論文の作成にむけて、主に近世を中心とした史料の読解力を養うと共に与えられた課題に対し、自ら調査・考察し、その成果を報告するための方法を学ぶ。

◆準備学修

授業においても述べると思うが、テキストの『民間省要』は、享保改革に対する批判・提言の書、という性格をもつものである。

したがって、享保改革に関する基本的知識をあらかじめ得ていることが望ましい。なお、同改革についての詳細は、授業において講義する予定である。

◆授業の計画及び方法

授業の方法は、メディアを利用しての学生のテキスト（田中丘隅著『民間省要』）読解と内容についての報告、及び、それに対する教員からの評価・補足説明を中心に進める。課題報告のテキスト部分は、受講者個々、または、グループごとに指定するが、報告に対する質疑応答は、受講者全員が参加して行うものとする。

第1回～第4回

教員による講義（史料読解のための基礎知識、テキストの解題、時代背景の解説、報告のしかたについての説明など）

第5回～第12回

学生による課題報告とそれに対する受講者全員・教員との質疑応答、及び教員による評価と補足説明

◆教科書

『民間省要』田中丘隅著（授業で使用する部分は事前にコピーを配布する）

◆参考書

『国語大辞典』（小学館），『国史大辞典』（吉川弘文館）

『岩波講座・日本通史』13巻・近世3，『地方凡例録』上・下（東京堂出版）

※詳しくは各テーマごとに紹介する。テキスト各条についての関連史・資料を適宜提示する。

◆成績評価基準

メディア授業の受講状況（学修頻度）と報告内容（60%），及びインターネットを利用しての受講者間、教員との質疑応答への積極的参加度（40%）。

※既にメディア授業で当該講座に合格した学生は、受講できません。